

松蔭 校長室だより

2025年 11月 1日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井宣光

「子育てのやり直しはいつでもできます」 (スクールカウンセラーの言葉)

「松蔭の冬服を見ると何だか落ち着きますね」

冬服への衣替えは10月20日でしたが、制服制定以来の1世紀で最も遅い日付になりました。紺地に白いカラーとカフスの制服姿の松蔭生が三々五々下校する姿をご覧になり、ある神戸生まれ、神戸育ちの方が呟かれたのが表題の言葉です。生徒によると、駅のホームなどで年配の方から、「私も卒業生です」「その制服を着ていたのよ」などと頻繁に話しかけられるといいます。

今年1月17日の阪神淡路大震災30年目にあたる祈念礼拝では生徒たちに次の話をしました。「学校の南側にある王子公園の体育館は、震災直後から避難所や亡くなった方のご遺体の安置所になっていました。しかし収容力を超えてしまったため、神戸市から、松蔭の校舎を使用させてほしいという連絡が入りました。近隣の施設などは受け入れを躊躇されたそうですが、当時の校長先生の判断で、新築の体育館を一時安置所としてお貸しすることになり、約70体の遺体が安置されました。震災を経験した地元の方々の中には、このことについて『キリスト教主義学校の矜持を見た』『さすが松蔭』と語り継いでくださっている方がいます。そのような学校の生徒だと思ひながら、皆さんの制服姿をご覧になる地元神戸市民もおられるのです」

校則やルールによって管理するのではなく、身だしなみや立ち居振る舞いを整えることは、誰もが知る制服を身に纏い、伝統校に在籍する生徒としての責任です、という本校生徒指導の理念は、松蔭らしく実に理にかなっているとあらためて思うのです。

保護者「おしゃべり会」の話題から 「思春期のはなしをしましょう」

中学と高校では、それぞれ在学中に衣替えを6回経験します。その瞬間に立ち会うたび、私が感じてきたことは、思春期真っただ中の時代を過ごす生徒たちの表情が、季節のうつろいと共に子どもから大人へ変化していくことです。

先日開催した第2回「保護者おしゃべり会」には、中学・高校の保護者の方8名が参加され、約1時間の「おしゃべり」を楽しまれていました。年間テーマ「思春期のはなしをしましょう」のもと、冒頭でスクールカウンセラーより、「思春期の親の最大の役割は、こどもの『安全基地』であること」という話がありました。「安全基地」とは、子どもが安心を感じることができる親のあり方、という意味です。何よりも親の「見守る姿勢」が大事だともおっしゃいました。

精神的な自立、心理的独立を果たそうとする思春期に、子どもは親から離れて自立しようとしながらも、一方で親に依存しようとする、矛盾する態度を示します。子どもが発する、ちぐはぐな言葉や態度の繰り返しの腹を立てたり呆れたりして、「もういい加減にして!」とつい叫びたくなる場面も親の日常ではないでしょうか。他方でこの時期には、「自分と同じような」仲間がいるという安心感によって親からの心理的自立を果たそうと、友人関係をこさらに大切にしようとする様子が見受けられます。中高時代に友人間トラブルが起こりやすい理由は、同質性を求めるあまり、特定の関係に過度に密着しようとしたり、グループのなかでも個々の関係性に温度差があったりして、適切な距離感を保つ力が未熟な点だと、日常の学校生活を見聞かして感じています。

親にとっては心配が絶えない中高時代です。「話す」ことは、不安や悩み、マイナスの感情を自身から「離す」「放す」ことだと言えます。ささいなことでも、学校の相談室(カウンセリングルーム)のご利用なさってはいかがでしょうか。相談室では、公認心理士資格をもつスクールカウンセラー(SC)3名が平日10時~17時に交替で勤務しています。相談の予約、申し込みは、保健室の養護教諭(池田、田原)または担任までご連絡ください。事務室を通じてでもかまいません。また各自治体に設けられた相談窓口や児童相談所は、18才未満の子どもに関する相談に対応しています。神戸市の場合、「神戸市こども家庭センター(代表Tel 078-599-7300 平日8:45~17:30)」で児童心理司・医師など専門職員が対応しています。保護者「おしゃべり会」(次回は3学期に「令和の思春期—スマホ依存・SNS—」を話題とする予定)へのご参加もお待ちしています。